

① 津久見市学力向上アクションプラン

市内で統一した組織的な学力向上の取組の徹底

1 学級づくり・学習規律の確立

(1) 安心して発言のできる教室づくり

- ・ 津久見市スタンダード4点セットの周知徹底
- ・ スタート・カリキュラムの取組の徹底（小1・中1）
- ・ 児童会・生徒会を中心とした「学習目標」「学習規律」づくりの推進
→児童・生徒による目標の進捗状況の把握

(2) Q U調査を活用した学級づくり

- ・ 年間2回のHyper-QU調査の実施（小3～中3）
- ・ 年間2回のHyper-QU活用研修への参加
※学級担任を中心に、研修を受けてない教員対象



2 新大分スタンダードに基づいた授業改善

主体的に学びに向かう「課題」設定と「振り返り」の充実

(1) 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の徹底

- ・ 校内研修と授業改善の5点セットの連動
- ・ 児童・生徒が主体的に学びに向かう課題設定の工夫
→児童・生徒の思考が持続する課題の設定
- ・ 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等をつなげる「振り返り」の充実
- ・ 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業の推進

(2) 授業改善に向けての意欲喚起

①学力向上PT公開授業・授業視察

- ・ 年間2回以上の公開授業等及び協議会への参加

②年2回の学力向上に係る研修会（夏期・冬期）への参加

(3) 「生徒と共に創る授業」の推進

- ・ 児童・生徒による授業評価の実施（年間5回）
→学期末だけでなく、単元の終末や学期途中での授業評価の実施



3 学び残しをつくらない手立ての工夫

☆「授業がわかる」と答える児童生徒の割合 小学校90% 中学校80%

☆単元末テストや定期考査の低学力層の児童生徒の割合 10%以下

(1) 学び残しをつくらない手立ての工夫

- ・ 授業における「具体的な評価規準（B評価）」の設定及びC層への手立ての具体化
- ・ 今日の時間で「わかったこと」を意識させるための「振り返り」の実施
→単元末テストや定期考査における低学力層（小：60%未満 中：40%未満）の把握
- ・ 市の学力調査と連動させた定着・弱点補強の取組
- ・ 県のデータベース問題（数学・英語）の活用
- ・ 外部人材・講師の活用…夏・春の学習クラブ
- ・ 放課後学習クラブの活用…小学生希望者対象

津久見市スタンダード4点セット

学習環境

- ☐ チリのない廊下や階段
- ☐ きれいな黒板
- ☐ UDを意識した教室前面
- ☐ 整頓された机とイス・ロッカー
- ☐ 体に合った机やイスの高さ調整

学習規律

- ☐ チャイム開始
- ☐ 目と耳で聴く
- ☐ 話型を意識した話し方
- ☐ 学習用具の準備（授業に不必要なものは持ってこない）

学力向上指導

- ☐ 授業構成の確立「導入－展開－終末（確認テスト等）」
- ☐ 板書の構造化
『めあて』と『振り返り』、『課題』と『まとめ』を板書に位置づける
プレートの利用
- ☐ 互見授業での授業観察シートの活用
- ☐ 生活（連絡）ノートへの記入の徹底（宿題の確認）

家庭学習

- ☐ 個に応じた課題（データベース等の活用）
- ☐ 家庭との連携強化



学力向上推進PTのミッションについて

＜学力向上支援教員＞

(1) 学力向上支援教員のミッション

① 津久見市及び勤務校の教職員の授業改善

- ・ 学びに向かう力と思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫改善による児童の学力向上を目的として、「新大分スタンダード」に基づく各教科等の特質を踏まえた効果的な取組を追求し、校内及び域内の授業改善を推進する

(2) 具体的な取組

① 授業改善の推進に係る取組

- ・ 本務校及び兼務校において年3回の授業公開
- ・ 評価規準、評価場面、評価方法を具体化・視覚化した単元プラン及び本時案の提案及び発信
- ・ C層の児童生徒に対する支援を具体化・視覚化した本時案の提案及び発信
- ・ 単元プランを作成提示し、学校間共通フォルダにてデータを共有
- ・ 本務校の学力向上の取組を推進

② 津久見市の学力向上に向けた取組

- ・ 市内の研修（学力向上に係る研修会・初任者提案授業等）における指導助言
- ・ 各種学力調査の分析を行い、教務主任会議及び研究主任会議等で課題解決に向けた取組を推進

＜習熟度別指導推進教員＞

(1) 習熟度別指導推進教員のミッション

① 津久見市及び勤務校の教職員の授業改善

- ・ 本務校において習熟度別指導を実施すると同時に、「個に応じた指導の手引き」及び「言語活動ハンドブック」を参考にしながら、習熟度指導の効果的な進め方、習得の学習活動の工夫について研究し、校内及び域内の授業改善を推進する。

(2) 具体的な取組

① 授業改善の推進に係る取組

- ・ 本務校及び校区内の小学校において年3回の授業公開
- ・ 評価規準、評価場面、評価方法を具体化・視覚化した単元プラン及び本時案の提案及び発信
- ・ C層の児童生徒に対する支援を具体化・視覚化した本時案の提案及び発信
- ・ 単元プランを作成提示し、学校間共通フォルダにてデータを共有
- ・ 授業公開後に教科部会を開催し、指導案・評価問題等の作成と共有、教材の作成と共有等を実施

② 津久見市の学力向上に向けた取組

- ・ 市内の研修（学力向上に係る研修会・初任者提案授業等）における指導助言
- ・ 各種学力調査の分析を行い、教務主任会議及び研究主任会議等で課題解決に向けた取組を推進

学力向上推進PT（プロジェクトチーム）

○学力向上支援教員

小学校国語 千怒小学校 山本 清子 教諭

○習熟度別指導推進教員

中学校数学 第一中学校 竹田 順和 教諭

中学校英語 第二中学校 佐藤 千尋 教諭

○体育専科教員

小学校体育 津久見小学校 井上富士久 教諭

○小学校英語専科教員

小学校外国語 津久見小学校 江藤 靖世 教諭



学力向上推進PT等授業公開の参加体制

授業公開等への参加の目的について

指導力の高い教員の授業を参観し、事後研修で研鑽を積むことにより、授業改善への意欲を喚起したり、よりよい授業づくりのヒントを得たりすることができる。

校種	種別	公開授業等
小学校	本務校	自校＋小外・小体・中数・中英・授業視察に計2回以上
	本務校以外	小国・小外・小体・中数・中英・授業視察に計2回以上
中学校	国語科	小国＋中数・中英・小外・小体・授業視察に計2回以上
	数学科	中数＋中英・小国・小外・小体・授業視察に計2回以上
	英語科	中英・小外＋中数・小国・小体・授業視察に計2回以上
	上記以外の教科	小国・小外・小体＋中数・中英・授業視察に計2回以上

※ 参観者は事後研まで参加できる日を選び、事後研まで参加することを原則とする。

授業視察の目的について

市外の優れた取組や、市内で授業公開が実施されていない教科等の授業を参観することで、授業改善への意欲を喚起したり、よりよい授業づくりのヒントを得たりすることができる。

<授業視察のパターン>

- ・教科部会に参加を求める（原則全員参加）
- ・市教委が授業視察を兼ねて案内を送付（希望参加）